

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

第11回 定期総会 （通算16回）

議事次第 ・ 資料等

日時 2008年6月1日(日)

午後2時00分から午後4時00分

場所 三重県名張市上三谷268番地の1

エコリゾート赤目の森 会議室

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

第11回 定期総会

資料添付リスト

議題

第1号議案 2007年度の活動報告と決算報告 議決事項

活動報告 3ページから5ページ

決算報告 6ページから10ページ

第2号議案 2008年度の活動方針案と 予算案 議決事項

予算案11ページ 活動方針案12ページ

第3号議案 2006年度の役員選出（議案は当日配布いたします） 議決事項

報告事案

1. 介護保険事業「デイサービス赤目の森」の取り組みについて 別紙

2007年度 活動全記録

- 2007年 4月20日 第14回全国雑木林会議三重大会報告集作り
4月下旬 名張市立赤目小学校4年生 里山自然散策体験授業 春
デイサービス赤目の森 チラシ完成
20日 積水ハウス関連助成事業採択
5月11日 前理事長吉森加大氏 死去
6月 3日 理事会 赤目の里山を育てる会 総会
中旬 「里山ひろば」発行
7月上旬 名張市立赤目小学校4年生 里山自然散策体験授業 夏
7月15日 名張市市民公益活動実践事業「生き甲斐支援講座」実施
8月中旬 日本ミツバチ採蜜取り組む
9月 1日 国際ワークキャンプ15日まで
2日 名張市市民公益活動実践事業「生き甲斐支援講座」実施
中旬 上野税務署の本格税務調査が行われる。
9日 「赤目の森で希少生物たちと出会おう&二胡コンサート」
12日 ワークキャンプで重大事故
30日 鳥取県中部森林組合 「里山シンポジウム」理事長講演
10月13日 週末ワークキャンプ14日まで
14日 名張市市民公益活動実践事業「生き甲斐支援講座」実施
11月11日 関西大学社会学部片桐ゼミ合宿
中旬 「里山ひろば」発行
下旬 名張市立赤目小学校4年生 里山自然散策体験授業 秋
12月 2日 名張市市民公益活動実践事業「生き甲斐支援講座」実施
「餅つき講座」
下旬 第14回全国雑木林全国会議三重大会 報告書完成配布
ワークキャンプ「ナイス」との事故対応についての協議
- 2008年 1月21日 パーソナルペレタイザー本格稼働
2月17日 名張市市民公益活動実践事業「生き甲斐支援講座」実施
「味噌作り講座」
3月 6日 ミニベレ関係記事朝日新聞名古屋夕刊に掲載
17日 森林里山ボランティア安全作業指針 制定
17日 ワーキングホリデー3月31日まで

【議案 1】 2007年度の活動方針に沿っての報告

1. 特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会の基盤強化に取り組む

一昨年行われた第14回全国雑木林会議三重大会開催のための無理やこの10年間に蓄積した組織的疲労状況を明らかにして、これから先の10年に光りを与えるような「さきがけ」としての年にしていく、という方針だった。そのために、弱点といわれる会員の拡大を真っ先の課題として取り組んだが、大きな成果を得ることはできなかった。しかし、独自に開催したワーキングホリデーの参加者に、参加資格として会員になることを条件にしたところ、10名以上の青年学生会員が加入して、一応の成果を挙げることができた。

「団塊世代」への組織的取り組みはできなかったが、この10年間でできたネットワークを使って、いろいろな機会を通じて育てる会に連絡を取ってもらえるようになってきている。

育てる会の具体的業務の分担化は、従来からの課題となっているが、今年度も大きな進展はなかった。しかし、IT機器を使った様々な打ち合わせは、頻繁にできるようになってきている。

2. (特) 赤目の里山を育てる会 会員の皆さんと共に活動を行う。

基盤整備とともに、課題としてあげられる「会員中心の会運営」は、今年度も十分な取り組みを展開することはできなかった。専従職員は日々の仕事に追われて、事務局の体制が整っていない状況では、新しい取り組みを行う条件はない。簡単な仕事でも手伝ってもらえるような時と場所を確定して、それを知らせて集まってもらい、日々の課題を克服し、現状打破を計る必要があると考える。

今年度も広報活動や会員向の情報提供は改善できなかったと思う。会報は年に2回、メルマガの発行も不定期だった。しかし、新入職員の努力で、ブログでのリアルタイムの情報発信が行われて好評だった。

会員向のアンケートを実施する予定だったが、上記の理由でできなかった。

赤目の森周辺で行われる自主的な取り組み 例えば「第一日曜日作業日」の取り組みや、第四水曜日の石釜を使っての「石釜パン焼き」の取り組みは、赤目の里山を育てる会を知らせ、保全協力に結び付けていくことになり、会員中心の活動として意義深い取り組みであると思う。

3. 里山保全の担当エリアを確定して、内容を充実させる。

里山保全の中核的作業集団は、「ナイスワークキャンプ」「ワーキングホリデー」「週末キャンプ」などである。

今年度は、トンボ池の三年に一度の「底さらい」を重点課題として実施して完了させることができた。また、トンボ池の木道トレールも全面的に取り替えることができた。

里道の年間確保とトムソーヤ広場、トンボ池・里山広場・トラスト地周辺の整備が赤目の里山を育てる会の管理エリアとして取り組むのが精一杯ということだと思う。特に、見せるエリアとしてエコリゾート赤目の森の北斜面の整備が進み、見ごたえのある景観ができつつある。

ただ、トムソーヤ広場のタイヤレールや遊具が壊れていて早急な修理が求められている。

4. エコリゾート赤目の森を拠点に、新しい里山事業を展望していく

16年を迎えるエコリゾート赤目の森は、日本の里山保全活動のモデル事業としての先駆的な取り組みである。長年の間にはいろいろなことがあり、維持することが何より大切なことである。赤目の里山を育てる会としても、車の両輪のひとつとして協力支援をしてきている。

赤目の里山を育てる会として、日本ミツバチの飼育講座 木質バイオマス講座 石窯利用講座 等の取り組みを見せる事業にして、集客化を図る必要がある。今年度も十分な取り組みはできなかったが、「日本ミツバチ」の取り組みなどは、巣箱に新しい巣作りが2つもできて、今後の展開が望まれる。やはり、人的な体制の確保が整っていないためであり、その限界がきていると考えられる。

5. 介護事業の安定化を図り、更なる発展をめざす

介護事業は、赤目の里山を育てる会の中核の取り組みとなっている。利用者の確保、職員の常勤化、介護保険の低劣など様々な困難と課題を抱えている。しかし、5年間大きな問題を起こさずに無事に事業を発展させてこられたことを確認したい。事業開始から市内の事業所は倍増して、事業所からの紹介利用者さんだけでは、運営が厳しくなっている。独自性のある豊かなサービスの提供と安心安全の事業運営を努めて、更なる信頼を得ていかなければならない。今年度は、積極的な広告宣伝 事業所訪問 ケアマネとの緊密化などを進めて厳しい環境を乗り越えてきたということができると思う。職員の献身的な仕事振りが大きな成果をもたらしたと思う。

あらゆる機会を通じての利用者確保の取り組みと、無理無駄のない事業運営を基本に取り組んでいく必要がある。常勤職員の確保という問題も深刻。そのために、労働条件の向上は急務の課題となっている。しかし、日常的な介護報酬の拡大はすぐに期待できない状況の中で、会員多くの人たちに「賞与募金」にご協力をいただき、職員に夏 冬とともに支給することができた。

しかし、一度欠員ができると数ヶ月間は、その確保に手をとられて健全な事業運営ができないという厳しい状況が続くことになる。

【一年を振り返っての概観】

前年の中心的な職員の退職で生じた諸問題は、介護部門はもとより育てる会の様々な取り組みに今年度も影響を引きずる状況だった。年度始めからの介護職員の度重なる退職で、人材の確保が急務で育てる会のことに手が回らなかった。6月に介護職員の採用を行い、抜本的な育てる会構築を目指して、常勤4人体制としての積極的な採用として、事務局員としての常勤職員募集を行い、7月に採用を行った。

ところがすぐ介護職員が退職となり、積極採用の思惑は外れることとなった。夏季の介護報酬が思わしくない中で、欠員の介護職員を採用する機会を逃し、そのままの状態新しい年度を迎えようとしていた。

既に10年を迎える国際ワークキャンプ「ナイス」との協働事業では、残念ながら、指の切断(後に手術にて回復)という大きな事故を起こし、ワークキャンプのあり方や安全指針作りが急務となった。その結果「ナイス」とのキャンプ事業は年2回実施のところを冬は中止とすることになった。

育てる会としては、里山保全やまちづくりの主体者養成の任務を実現し、新たに作った「作業安全指針」が、現場の作業に活かされるかどうかを確認するために、育てる会単独で「第1回ワーキング・ホリデー」を計画して、3月に2週間取り組むことができた。5名の参加者で、予想を上回る成果を実現し、安全指針も十分使えることを立証した。

また、9月には税務署の本格調査が行われた。これは、昨年からの収益事業の申告を行った結果、課税対象との判断で行われたもので、実際に過去4年さかのぼって30数万の法人税を徴収されることになった。しかし、この課税は不当なもので、会費などの収入は非課税にもかかわらず、総収入の割合から、収益部門の経費をその割合で減額して、結果として、利益を算出して、課税するということが行われた。

つまり、助成金で送迎車のような高額な助成を得た場合は、収入部門の各部門の割合を出して、収益支出部門のたとえば人件費や家賃などをその割合で処理して、経費不参入にするということを行った。ほとんど収益部門で業務を行った人間の経費を助成金の収入分の割合で、経費分の人件費を少なくして、結果収益を算出して課税するという方法は全く認められないと考えている。昨年度には表立った行動を起こせなかったのが、新年度にはきちんと対応したい。

里山の保全活動においては、ワーキングホリデーやナイスのキャンプで十分な取り組みを行うことができた。また、この数年開発に取り組んできた「パーソナルペレタイザー」の調整が順調になり、本格稼働が行えるようになり、取り組みは専門雑誌にも取り上げられるようになり注目を浴びた。この機械を順調に利用することにより、木質エネルギーを上手に取り出し活用することができることになった。また、里山の幸ということでは、日本ミツバチの養蜂活動もやっと緒につくことができた。2006年の春から設置した巣箱にやっと2箱に巣作りが行われたというのもトピックスで、新鮮で濃厚な蜂蜜を味わうことができたのも大きな成果だった。

2007年度に大きな助成金事業を行ってこなかったのは、全国大会の疲れを癒し、内部エネルギーを蓄えるつもりだったが、そのようなものはやはり蓄えられなかったのだろうと感じる。NPOとしての厳しさとそれにも増して味わえる貴重な達成感を多くの人たちに実感してもらえるように努力できれば、新しい年にも期待を持つことができるだろう。

2007年度 本来事業 会計収支決算書

(2007年4月1日から2008年3月31日)

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

金額(単位 : 円)

科 目			
I 収入の部		II 支出の部	
1 会費収入	184,500	1 本来事業費	
2 寄付金収入	633,800	① 助成金事業費	562,243
3 各種助成金収入	500,000	② 企画運営費	174,391
4 トラスト寄付金収入	0	③ 里山整備費	167,547
5 実費負担収入	4,000	④ 委託費(介護系)	523,490
6 受託事業収入	0	⑤ 介護事業費	17,462,004
7 自主事業収入	128,511	本来事業費計	18,889,675
8 介護事業収入	15,289,398	2 管理費	
9 その他収入	3,394	① 図書印刷費	57,851
		② 諸会費	152,000
		③ 事務消耗費	27,097
		④ 地代	20,000
		⑤ 広告費	417,610
		⑥ 車両関係費	267,590
		⑦ 出張旅費	174,417
		⑧ 通信費	132,995
		⑨ 振り込み料	19,753
		⑩ その他	581,333
		管理費計	1,850,646
当期収入合計	16,743,603 (a)	当期支出合計	20,740,321 (b)
当期収支差額	(a) - (b)		-3,996,718
前期繰越残額	3,896,813	次期繰越収支差額	-99.905

収入内訳

会費	個人16	賛助	2.5
寄付金	個人44万	住友海上5万	東海労金 14万
助成金	積水ハウス 30万	名張市	20万
自主事業	理事長講演		
介護事業	介護報酬	1380万円	
	自費負担分	148万円	

支出内訳

・ 助成金事業	左記 事業分
・ 企画事業	二胡 コンサートなど
・ 委託費	シルバー人材
・ 介護事業費	1年分
・ 図書印刷費	印刷資材など
・ 諸会費	ナショナルトラスト協会など
・ 車両費	里山関係のみの車両費
・ 出張旅費	理事長出張費など
・ 通信費	切手代 郵送費

2007年度 貸借対照表

2008年3月31日現在

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会
金額(単位 : 円)

科 目		
I 資産の部		
1 流動資産		
現金預金		
内訳 現金		29, 886
郵便貯金		29, 004
郵便振替		16, 140
第三銀行		142, 452
第三銀行		221, 853
第三銀行		7, 754
第三銀行		309, 051
ろうきん東海		344, 482
介護報酬未収金		2, 254, 303
介護自費未収金		70, 324
仮払金		13, 770
流動資産合計		3, 439, 019 (a)
2 固定資産		
有形固定資産		
車両運搬具 軽トラック		41, 902
車両運搬具 林内作業車		59, 705
車両運搬具 送迎車両		1, 856, 904
什器備品 高速印刷機		43, 712
什器備品 木製案内看板		13, 907
什器備品 デジタルカメラ		13, 383
什器備品 コンピューター		122, 002
什器備品 ペレタイザー		827, 739
什器備品 ペレタイザー		826, 000
建物 ミニログハウス		458, 432
第1号トラスト地		1, 501, 000
第2号トラスト地		1, 000, 000
有形固定資産計		6, 764, 686 (b)
資産合計		10, 203, 705 (a)+(b) = (c)
II 負債の部		
1 流動負債		
借り入れ金		3, 169, 606
未払金		2, 465, 470
社保預り金		129, 044
市民税預り金		129, 996
源泉預り金		12, 514
立替金		3, 423, 976
流動負債計		9, 330, 606

負債合計	9,330,606	(d)
Ⅲ 正味財産の部		
正味財産合計	873,099	(c)-(d)

1. 固定資産は次の方法で減価償却計算をしている。

車両運搬具 什器備品 : 定率法

2. 正味財産の増減内訳

減少	
当期収支差額 (減価償却費計上)	-3,996,718
当期正味財産減少額	-3,996,718
前期繰越正味財産額	3,896,813
期末正味財産合計額	-99,905

3. 収支についての説明

介護保険法の改悪による介護報酬が引き下がって、2年目に影響が出てきたといえる。

また、常勤4人体制で人件費支出した分の経費増が大きい。

資産と負債が同額となってきたが、介護報酬が改善してくれば、負債を減らしていける。

CO2削減 地球温暖化防止の意味でも、節電節約のための器具変更や新設で対応したいと思う。

毎月の光熱費を1割削減を本気で取り組みたいと思う。



里山子供キャンプ

デイサービス赤目の森の介護事業 損益計算書 単位円 2007. 04. 01~2008. 03. 31

三重県名張市上三谷 268-1

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

収入	・ 介護報酬	13, 801, 995円	
	・ 食事自費代等	1, 487, 403円	
	合計	15, 289, 398円	
支出			
	・ 人件費	7, 159, 935円	(+非営利分682, 272円)
	・ 交通費	184, 970円	
	・ 福利厚生費	872, 027円	(+非営利分83, 096円)
	・ 家賃等	4, 382, 400円	(+非営利分417, 600円)
	・ 光熱費	950, 387円	(+非営利分90, 562円)
	・ イベント事業費	167, 516円	
	・ 委託費	523, 490円	
	・ 食材関係費	558, 755円	
	・ 車両関係費	1, 356, 963円	
	・ 広告費	417, 610円	
	・ 通信・図書費	347, 658円	
	・ 諸会費	20, 000円	
	・ 研修費	45, 000円	
	・ 日常消耗品費	154, 083円	
	・ 備品消耗費	0円	
	・ 事務消耗品費	15, 000円	
	・ 出張旅費	85, 000円	
	・ 減価償却費	0円	
	・ 保険減点分(4.5 月)	53, 780円	
	・ 雑費	0円	
	支出合計	17, 294, 574円	
	収支合計	欠損	2, 005, 176円

- ① 金額右のカッコ内の数字は、当会は経費と算入したいが、税務署の指導でデイサービス赤目の森の経費外として除外した金額です。例えば、人件費の全てがデイサービス赤目の森の事業のために供されたかといえば、助成金事業や他の事業に使ったということもいえるだろうという意味です。算出の仕方は、収入の割合でデイの収入割合分しか経費に参入できないという不当なものです。通常デイ送迎車を助成金で得た場合や会費や寄付金が多くなるとデイの収入割合は下がり、経費に参入できないということは、収益がでるといことになります。会費に税金がかかるということになります。
- ② デイサービス赤目の森の収入は前年230万円減となりました。
- ③ 欠損金として 200 万円がでました。減価償却費を計上する必要がなくなりました。
- ④ デイサービス赤目の森の利用者の確保が、経営安定に欠かせない状況となっています。
- ⑤ 人件費をアップして、労働条件を改善したいと思っています。厳しい労働環境の中でヘルパーさんたちは頑張って仕事をしていただいていると思います。

みどりの基金 会計報告 2008. 3. 31

◆ 協力者数 65名	協力者一覧 (申し込み順 敬称略)		
藤野真一 (名張)	島田つや子(西宮)	高橋章(名張)	牧村好貢(木津)
家古谷瑛子(八尾)	塚脇英明(東大阪)	山川一成(高槻)	寺家静恵(守口)
水谷康範 (名古屋)	有吉春久(名張)	中村清(名古屋)	遠 典子(室生)
水谷義明 (吹田)3口	佐々木倭文子1. 2口(吹田)	濱崎勝美(堺)	西田宏子(生駒)
西田宏民2. 4口(生駒)	文殊和美(名張)	福田和夫(木津)	石田一宏(流山)
永田昇 (豊中)	平野晴康(渥美郡)	速水敏子(大阪)	岡田光代(松原)
木下利一郎(松原)	鈴木紀(名張)	吉森加大(名張)	谷川洋一(東大阪)
松嶋欽一 (名張)	木村香代子(泉佐野)	西田一雄(京都)	ハガ武 (大阪)
ハガ制子 (大阪)	福森亮二 7口(名張)	舛次崇(西宮)	伊井野雄二(名張)
田村修市 (名張)	古川田鶴子(京都)	下川朋子(東大阪)	高田和弘(名張)
浜口秀子 (東大阪)	八島かをる (名古屋)	松本をよ(高砂)	笹尾美津子(大阪)
田郷誠之助(名張)	佐山孜 (名張)	市橋孝子(名張)	高田直俊2口(池田)
内田吉保 (名張)	前田善孝(名張)	谷川正行(名張)	市橋文子0. 2口(名張)
熊本芳文 (名張)	吉田薫 (名張)	若松シズ子10口(寝屋川)	福井正樹(名張)
藤田洋子 0. 5口(西宮)	仲田敏 0. 4口(名張)	山崎忠久 (上野)	永山健二0. 5口(名張)
村上豊0. 6口(堺)	山岡義典 (狛江)	山上佳代子様 0. 2口(堺)	佐藤範明様0. 2口(大阪)
久保克美様 (大阪)			

◆ 口数 80. 4口

◆ 取得不動産

買取日

面積

住所

地目

名義

取得価格

手続き費用

トラスト地看板設置 費用

2号地 木道 トレイルの補修

1号地の枯れ松伐採2号地の木道 トレイルの材料など

2008. 3. 31現在の取得整備費用合計

2007. 3. 31現在のトラスト資金残

◆ 基金総額 ￥4, 020, 000-

第2号地

2000年12月

1086平方メートル

三重県名張市上三谷字赤坂

田

吉森 加大

￥1, 000, 000-

￥44, 420-

1号地周辺草刈管理 ￥20, 000-

2号地修繕 ￥10, 000-

￥85, 000-

第1号地現況

- ・ 座席周辺の草刈 倒木処理 などの実施
- ・ 座席上部の倒木 伐採材の撤去
- ・

第2号地現況

- ・ 一昨年 地目を田から変更する手続きを行った。完了は1年以上かかる見通しで現在も進行中。隣地の確認
- ・ 草刈を実施。また、木道トレイルの補修作業を実施する。

【第2号議案】 2008年度の予算計画案

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会 第10回 総会資料

2008年度 予算計画書 案

08. 4. 1～ 09. 3. 31

収 入		支 出	
1	会費収入 200. 000	1	本来事業費
2	寄付金収入 700. 000	①	助成金事業費 1. 000. 000
3	各種助成金収入 1. 000. 000	②	企画運営費 200. 000
4	トラスト寄付金収入 100. 000	③	里山整備費 200. 000
5	実費負担収入 10. 000	④	受託事業費 200. 000
6	受託事業収入 200. 000	⑤	介護事業費 16. 000. 000
7	自主事業収入 300. 000		本来事業費計 17. 600. 000
8	介護事業収入 16. 000. 000	2	管理費
9	その他収入 50. 000	①	図書印刷費 30. 000
		②	諸会費 100. 000
		③	事務消耗費 80. 000
		④	地代 80. 000
		⑤	備品消耗費など 10. 000
		⑥	車両関係費 150. 000
		⑦	出張旅費 100. 000
		⑧	通信費 100. 000
		⑨	その他 100. 000
			管理費合計 750. 000
	当期収入合計 18, 560, 000		支出合計 18. 350. 000

当期繰越差額 210, 000

前期繰越残額 —99. 905

次期繰越収支差額 110, 095

《収入部門》

- ・ 毎年の事ながら、助成金や受託事業などは、申請して勝ち抜いて得られる収入であるため、高額な金額を計上しているが、獲得できるかどうかは分からない。これまでの実績で考えている。
- ・ 特にバランスのよい収入構成を目指すために、会員増加を大きな目標としていかなければならない。
- ・ デイサービス事業利用者獲得の大きな課題を全会員のものにすることが重要。
 昨年のデイサービス月平均報酬 128万円 ー昨年 154万円 今回の予定金額は 133万円

《支出部門》

- ・ デイサービス関連の赤字をなくする努力を行う。家賃を10万円減額交渉する。
 収入 133万円 支出 給与+福利厚生費 75万円 家賃 30万 光熱費10万 食費5万 その他 13万
- ・ バランスの取れた支出で、大きな欠損を出さないよう取り組む
- ・ デイサービス事業費は、収支トントンでいけても 課税対象となる可能性がある。

【第3号議案】 2008年度の活動方針案

1. **特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会の基盤強化に取り組む（3年計画の初年度として）**
会員の善意を上手に生かす条件を整えながら、業務を分担する取り組みをおこなう。単年度での取り組みではなかなか推進できないので、3年間で取り組みこととする。
事務局を手伝ってもらえる人材を確保していく。
 - ・ 組織内の業務を分担化して、無理のないスムーズな活動を行う。
 里山整備 広報 会計 イベント 助成金事業
 - ・ 親しみやすいイベントを開催して、里山のファンをたくさん作り出していく。「自然観察会」などに取り組む
 協働事業やイベントでも、必ず赤目の里山を育てる会紹介 会員募集を訴える。
 - ・ 基礎基盤を確立するための各種文書や資料作りを行う。
 会員募集 育てる会のチラシ パンフレット など
 - ・ 学生会員を増やしていく ワークキャンプや地元の大学生などと協力して「まちづくり」を進めていく。

2. **(特)赤目の里山を育てる会として、創造的な取り組みを行い、魅力ある里山活動の手本をつくる。**
NPO としての里山保全活動には、関係する人たちの感動と新しい発見が満ち満ちているような取り組みが必要である。パーソナルベレタイザーの普及推進 日本ミツバチの「蜂蜜オーナー」 石窯講座などの取り組みを推進して、事業化を進める。
また、NPO 法施行10周年の本年には、ユニークな取り組みとして「都道府県第1号認証団体サミット」を三重県と協働事業として取り組み、成功させていきたい。

3. **里山保全活動を安全に推進する「モデル事業団体」として、全国にアピールしていく。**
昨年度の残念な事故を教訓に、「森林里山作業安全指針」を創設した。この指針を利用して、里山保全活動を安全に有効に行っていくことが求められる。また、この指針を赤目の里山に留めておかないで、全国の里山保全団体に普及啓発していくことが、事故から学び大きな教訓とする取り組みになると考える。

4. **NPO 諸団体との新しいネットワーク化を追求し、NPO 法施行10周年を祝い、更なる発展の契機とする。**
NPO 法施行10周年の本年には、ユニークな取り組みとして「都道府県第1号認証団体サミット」を三重県と協働事業として取り組み、成功させていきたい。NPO 団体の活動が停滞しているといわれる中で、新しい仲間とともにNPO の再交流の場を創出して、更なる発展の契機としていこう。

5. **デイサービス赤目の森 独自の特徴あるサービスを提供して、介護事業の安定と充実を図る。**
これまでの経験をもとに、利用者の獲得 独自性の強いサービスの提供 利用者の安全確保などを第一に、安定した事業運営を図っていく。
介護報酬の低劣など、厳しい現実の中で、さらにNPO法人の介護事業所としての役割を明確にしていく事が求められる。同業NPO との連携などを模索していきたい。
 - ・ 広報活動の定例化 事業所訪問 ケアマネとの情報の共有化 利用者の獲得 拡大
 - ・ ムリ・ムダのない運営を行って働きやすい職場環境を作っていく、職員の定着化を図る。
 - ・ 里山でのデイサービス事業の取組みを魅力あるものにしていき、「モデル事業」をめざしていく。